サマリア MCP・Agent 登場による特許業務の変革と使い分け

2026年に追加された「サマリア MCP」と「サマリア Agent」により、特許データ活用は「検索式を作成する作業」から
「観点を設計しAIの調査経過を検証する業務」へとシフト。用途に応じた３つの入口の最適な使い分けが成功の鍵となる。

サマリア MCP

外部AI連携。
指示数消費ゼロ。

サマリア Agent（β版）

画面内指示。
自動で段取り実行。

本体の定型ツール
網羅調査・大量処理に最適。

3つの入口

入口	利用画面	主な得意作業	指示数の消費
サマリア MCP	外部AIアプリ	自由な探索・1件の深掘り	消費しない
サマリア Agent（β版）	サマリア画面内	段取り委任・成果物作成	消費する
本体の定型ツール	サマリア画面内	網羅的調査・大量スクリーニング	消費する

特許業務における主な変化

実データ裏づけと可視化



根拠段落と検索式を可視化。

特許調査の重心シフト



観点設計と経過検証へ移行。

拒絶対応の初動高速化



対比表即生成。方針決定に集中。

Gemini Notebook